

お風呂を楽しみに待っているご利用者様のために

入浴車を少しでも長くお使いいただくために

1日の業務が終わったら必ず水抜きを行いましょう！

溜まった水をそのまま利用するのは、衛生的に決して良いものではありません！また、12月から2月にかけては水抜きを行わないことが原因でボイラー等の凍結による故障が多発しています。凍結すると、ご利用者様がお風呂に入れなくなってしまう上に、修理費用が発生します。

【水抜きの手順】

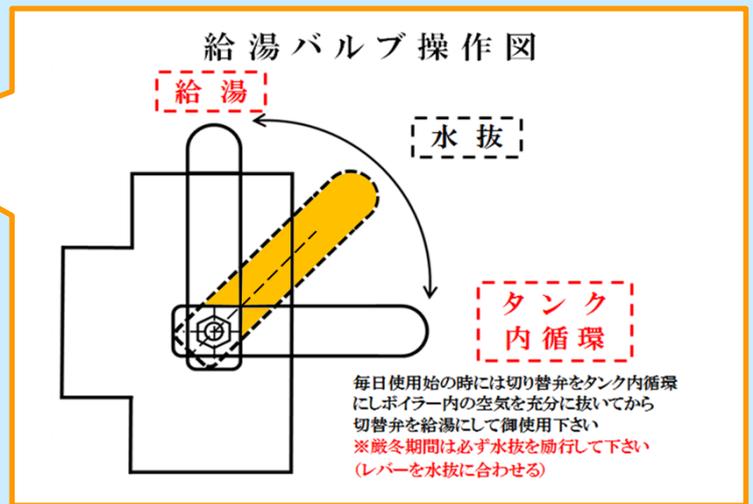
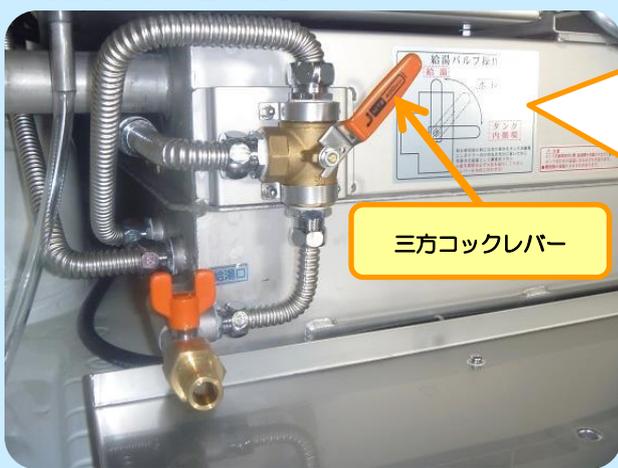
①配管内の水圧を抜く → ②配管内の水抜きを行う → ③給湯ポンプの水抜きを行う → ④ボイラー内の水抜きを行う



**水抜きを行う際には、必ず入浴車を平地に停車して行ってください。
しっかりと水抜きを行うために、はじめに配管内の水圧を抜いてください。**

①配管内の水圧を抜く → ②配管内の水抜きを行う → ③給湯ポンプの水抜きを行う → ④ボイラー内の水抜きを行う

すべての電源を切った後、**三方コックレバー**を給湯バルブ操作図の「水抜」の位置(斜め45度)にし、配管内の水圧を抜きます。



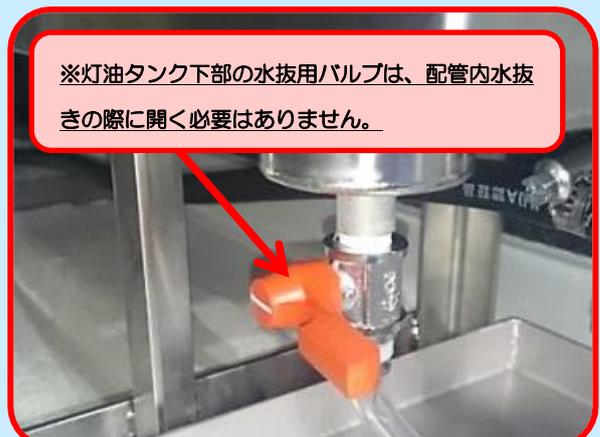
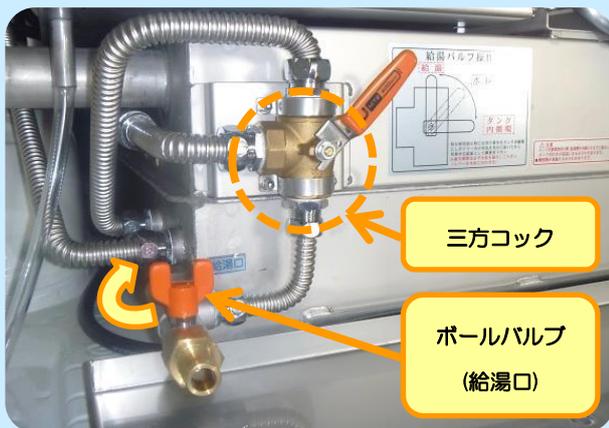
①配管内の水圧を抜く → ②配管内の水抜きを行う → ③給湯ポンプの水抜きを行う → ④ボイラー内の水抜きを行う



**灯油タンクの水抜用バルブは開けないようご注意ください。
※入浴車の年式、型式によってボールバルブの取り付け位置や個数は異なります。**

「三方コック内の水抜きをボールバルブ(給湯口)から行うことができます。

ボールバルブを矢印の方向に回して水抜きを行います。**ボールバルブ**はツマミが配管に対して平行の位置で「開」になります。他の**ボールバルブ**も全て「開」にして水抜きを行ってください。



①配管内の水圧を抜く → ②配管内の水抜きを行う → ③給湯ポンプの水抜きを行う → ④ボイラー内の水抜きを行う

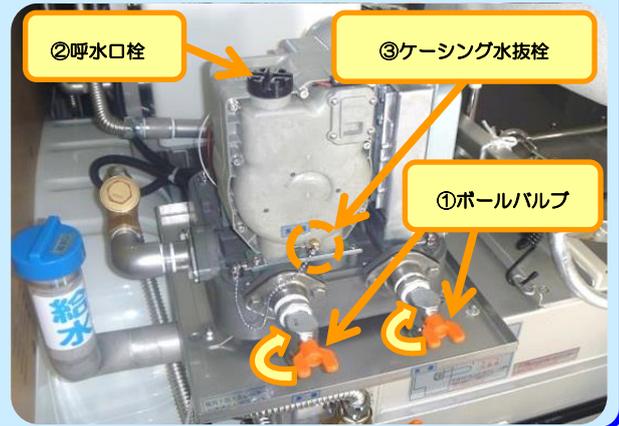


※入浴車の年式、型式によってボールバルブの取り付け位置や個数は異なります。

①ボールバルブを矢印の方向に開いて水抜きを行います。ボールバルブはツマミが配管に対して平行の位置で「開」になります。

②付属品の工具(L型レンチ)を使用して呼水口栓をゆるめて取り外します。

③ケーシング水抜栓をゆるめて取り外します。



①配管内の水圧を抜く → ②配管内の水抜きを行う → ③給湯ポンプの水抜きを行う → ④ボイラー内の水抜きを行う



ボイラーの背面部の水抜きバルブを開けても、水抜栓と過圧逃し弁を開かなければ、ボイラーの内部の水は抜けません。

※入浴車の年式、型式によって配管の取り付け位置や水抜きの手順が異なります。

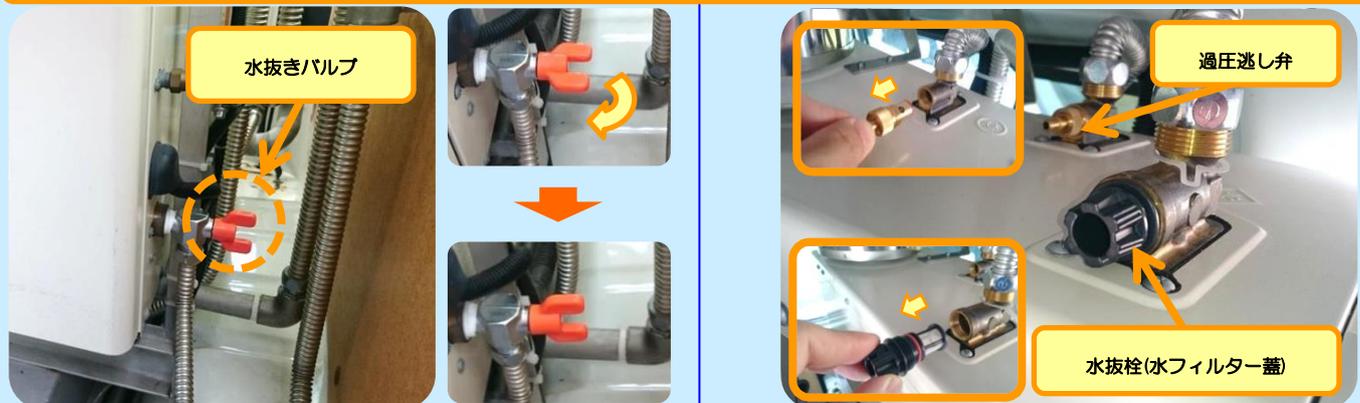
①ボイラーの背面部の水抜きバルブを矢印の方向に回して水抜きを行います。水抜きバルブはツマミが配管に対して平行の位置にすることで「開」になります。

②ボイラーの上部にある過圧逃し弁と水抜栓を反時計回りに回して取り外します。水抜栓と過圧逃し弁を取り外すことでボイラーの配管に空気が入り内部の水が抜けます。

コロナ製ボイラー (UIB-SA47XP(F)もしくは UIB-SA47RX-D(F))



ノーリツ製ボイラー (OQB-407F)



次に移動入浴車を使用する際の始業点検まで過圧逃し弁と水抜栓は開けたままにしておきます。

※再度、入浴車を使用する際には水抜栓と過圧逃し弁の取り付け確認をしてください。

ご不明な点、ご質問などございましたら、ご遠慮なくお問合せください



お電話の場合

029-247-2211 (代)



FAXの場合

029-247-2214